

看取り介護研修会

私たちの看取りケアを振り返り、
これからの考える



社会福祉法人光仁会富竹の里

KOUJINKAI TOMITAKENOSATO

AGENDA

本日の 研修プログラム

動画の視聴から始まり、
データ分析、課題提起、
グループワーク等を通じて、
看取りケアの本質を深めます。

1 看取り支援実践動画



2 データで振り返る



3 最期までよく生きるケアの実現へ



4 グループワーク



5 これからの看取りを考える



6 苦悩・悲哀・悲嘆する家族等への配慮



7 ACPにつながる想いのカケラ集め



8 まとめ・クロージング



Data Analysis

3施設・3年間のデータを見てみましょう



看取り率
(施設内看取り)

最期まで施設で過ごされた割合



入院日数
(推移)

施設での生活継続期間



家族参加型担当者会議
開催件数

本人・家族の意向確認の場

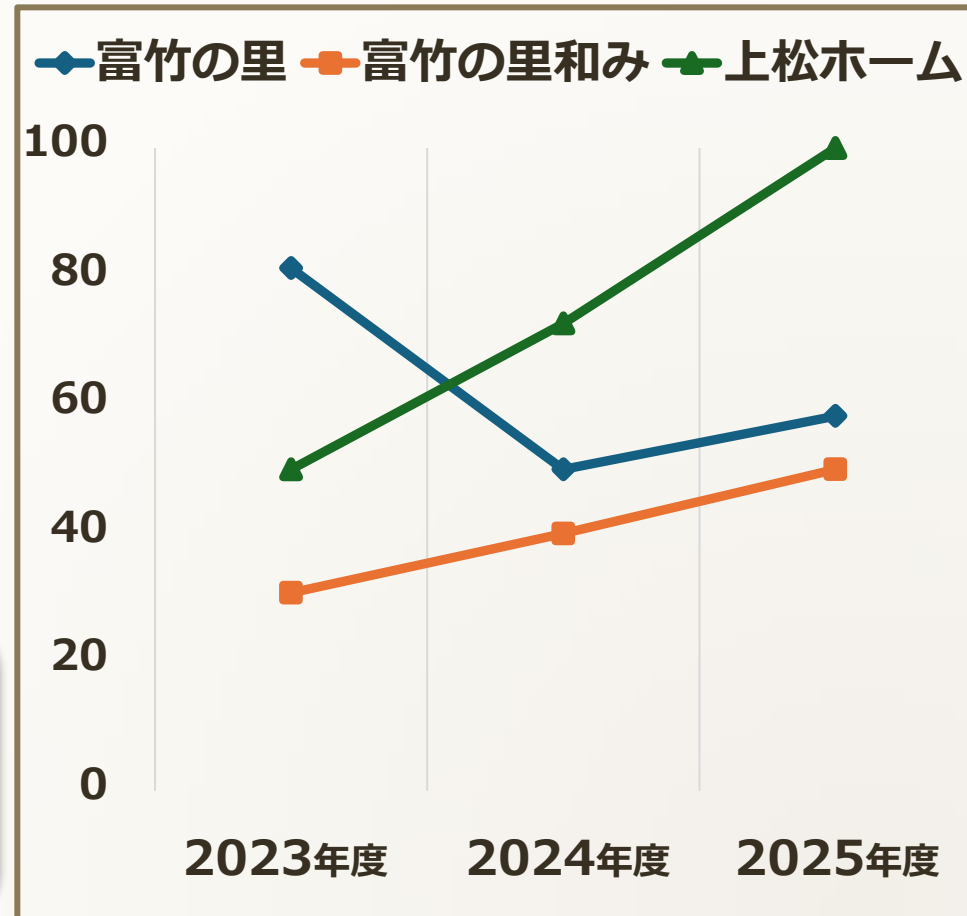
QUESTION

🔍 数字の変化から、何が見えてくるのでしょうか？

Data Analysis

看取り率の推移（施設内看取り）

施設名	定員	2023	2024	2025
特養 富竹の里	56名	81.3%	50.0%	58.3%
特養 富竹の里和み	20名	30.8%	40.0%	50.0%
有料 上松ホーム	24名	50.0%	72.7%	100%



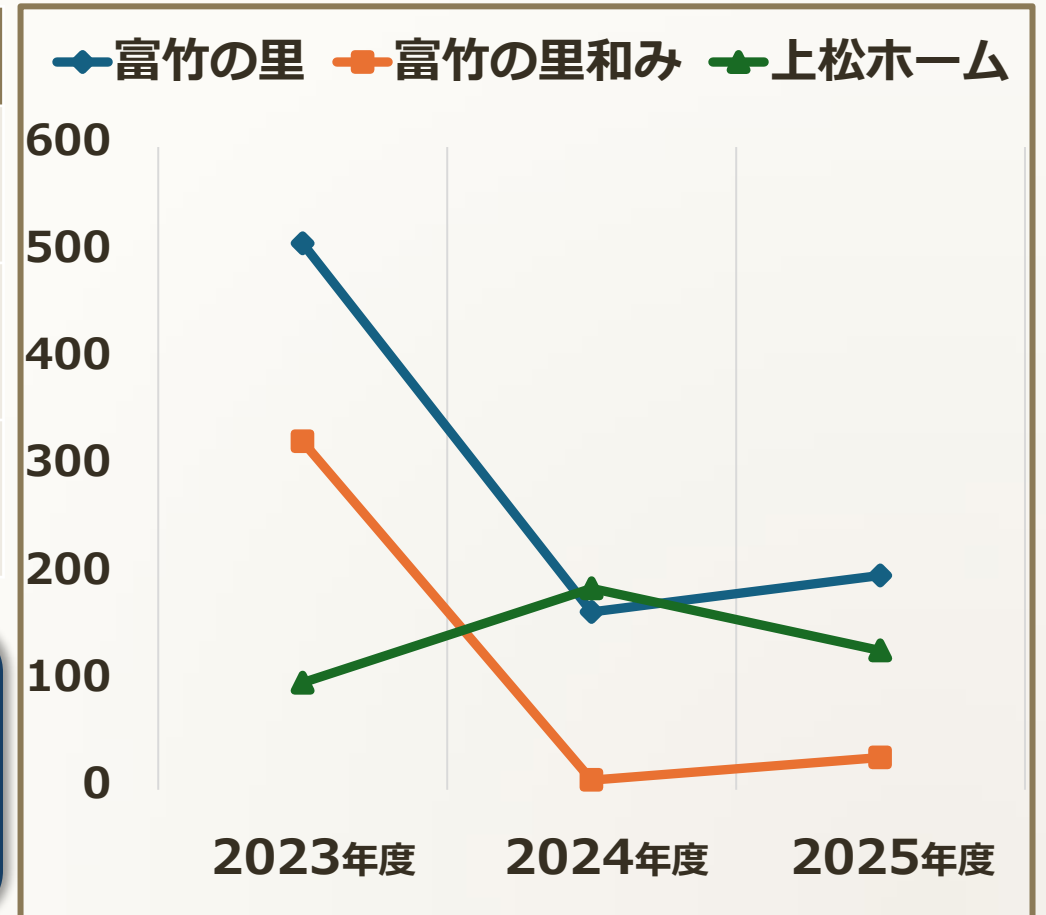
POINT 現実にはシンプルではない

💡 個別の状況・タイミングによる

Data Analysis

入院日数の推移

施設名	定員	2023	2024	2025
特養 富竹の里	56名	510日	166日	200日
特養 富竹の里和み	20名	325日	79日	30日
有料 上松ホーム	24名	100日	188日	130日



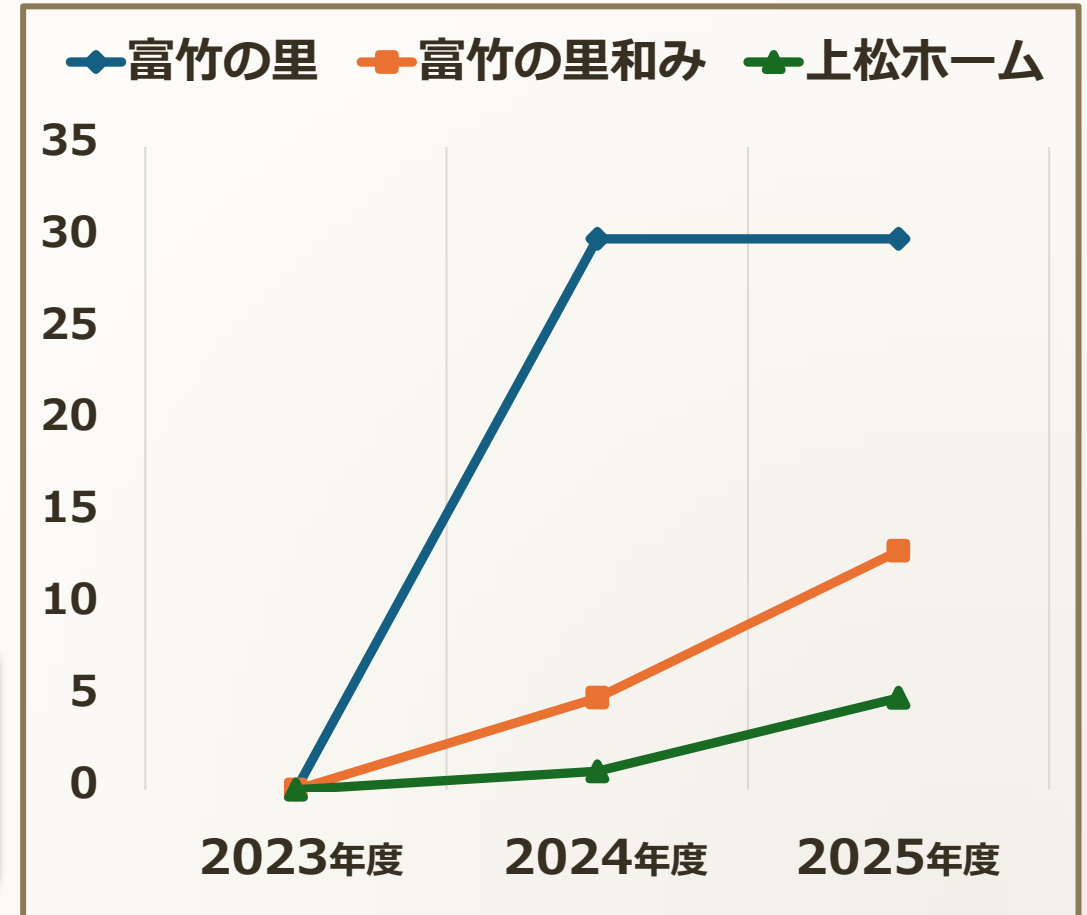
POINT 施設内ケアの充実

💡 入院期間短縮⇨施設期間増加

Data Analysis

担当者会議 開催件数（家族参加型）

施設名	定員	2023	2024	2025
特養 富竹の里	56名	0件	30件	30件
特養 富竹の里和み	20名	0件	5件	13件
有料 上松ホーム	24名	0件	1件	5件



POINT 劇的な変化

💡 戦略的実践による成果創出

Realization of Hope

最期までよく生きるケアの実現へ
自分らしく人生を終うために



“こう生きたい”
(外出・過ごし方)
を実現する



“デス・ナッジ”で
より良い意思決定に
つなげる

MESSAGE



“ACP”につながる“想いのカケラ”を集める

Effects and Challenges

効果と課題

良かった点

 顔の見える関係で安心感へ

 本人と家族の関係性が見える

 何気ない会話から希望を発見

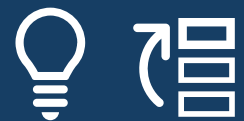
課題

 家族の遠慮、本音が出にくい

 一度では不十分

 想いは、その時々で変化する

MESSAGE



担当者会議は、継続的な積み重ねが重要です。

Group Work

グループワーク

【事例1】本人の意思が不明確な中で、夫の強い思いを軸に行った看取り支援

 Aさん 91歳 女性 要介護5
夫 91歳 子なし 甥あり

TIMELINE

● 入所前（本人の思い）

自分は死なない、死は嫌なこと、積極治療

● 施設入所時

人生の最終段階における意思決定未確認

● 入所1年後

本人：両足壊死、経管逆流、看取り期

夫：あきらめない、大病院で治療する

討議テーマ

本人の尊厳・意思を大切にすることの関わり

本人の意思は、
どの時点で、誰が確認しますか？

本人の苦悶と夫の強い思いとの関わり

家族（夫）の思いを聞いて、
あなたはどのように思いますか？



【事例 1】 本人の意思が不明確な中で、夫の強い思いを軸に行った看取り支援

(個人ワーク5分 グループワーク10分)

本人の尊厳・意思を大切にすることの関わり

質問 1. 本人の意思は、どの時点で、誰が確認しますか？

本人の苦悶と夫の強い思いとの関わり

質問 2. 家族（夫）の思いを聞いて、あなたはどのように思いますか？

Group Work

グループワーク

【事例2】 その時、誰が決めるのか？ 身寄りなき高齢者の意思決定と看取り支援



Bさん 85歳 男性 要介護4

身寄りなし

成年後見人なし

生活保護

措置入所

認知症あり

TIMELINE

● 施設入所時

人生の最終段階における意思表示なし



● 入所1年後

急な体調不良で医療・ケアの意思決定不可

🗨️ 討議テーマ

本人の視点で考える

Bさんの立場で、
どの時点で、誰に自分の意思を伝えますか？

支援者の視点で考える

私たち支援者は、
何を意識し、実践しますか？
(情報収集、記録、連携、法的支援など)



【事例2】その時、誰が決めるのか？ 身寄りなき高齢者の意思決定と看取り支援

(個人ワーク5分 グループワーク10分)

本人の視点で考える

質問1. Bさんの立場で、どの時点で、誰に自分の意思を伝えますか？

支援者の視点で考える

質問2. 私たち支援者は、何を意識し、実践しますか？

Current Issues

課題提起 ～これからの看取りを考える～

今、私たちの周りで起きている社会的な変化

親族等がない
身寄りのない人の増加



家族による支援が期待できない

兄妹・配偶者のみの
家族構成の増加



老老介護、キーパーソンの高齢化

意思表示のないまま
入所するケースの増加



家族等主導の決定・尊厳の欠如

NEXT STEP



こうした背景から、「3つの仮説」を立ててみました。

Hypothesis

私たちの仮説

課題解決に向けた3つのアプローチ



早期からのACP (人生会議)

入所時や体調不良時だけでなく、
入所前の元気な段階から、
本人の価値観や意向を確認する
プロセスを開始する必要がある。



専門職・機関との 多職種連携

施設単独では限界がある。
居宅ケアマネ+地域包括+医療機関
と情報を共有し、
チームで支える体制を構築する。



全世代型ACPへ (文化の醸成)

高齢者のほか、若い世代も含めた、
地域全体でのACPの普及が、
結果として身寄りのない方の
支援にもつながる。

KEYWORD

 **ACP** 人生会議

もしものときのために、自分の望む医療やケアについて前もって考え、
家族や医療・介護チームと繰り返し話し合い、共有する取り組みのこと。

出典：厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/web_magazine/closeup/23.html

Supported by the Community

地域全体で支える看取りへ



MESSAGE



施設だけで抱え込まない。地域でつながる看取り支援へ
施設で完結ではなく、個々の役割を果たし、連携の輪を広げよう。

Basic Support

苦悩・悲哀・悲嘆する家族等への配慮 ～ご逝去後のケア～



基本対応

- ✓ 過度な処置は控える（来訪前、診断前）
- ✓ 家族とともに整える（希望時）
- ✓ その人らしく（生前の面影を大切に）



立ち居振る舞い・関わり方



家族の感情は一様ではない



思い出話での笑顔



場面に応じた自然な関わり



環境への配慮

笑顔・笑い声・声のトーン・物音に注意



言動への配慮

不謹慎と受け取られない、言葉選び



無理に慰め・励まさない

安易な励ましで、負担になることも…



傾聴の姿勢

うなずき・相槌・静かに耳を傾けて…

VIDEO “ACP”実践事例紹介

当施設の看取り現場から

ACPにつながる想いのカケラ集め

～利用者・家族の想いをつなぐ～

 4min30sec

利用者・家族の「想い」を丁寧に拾い集め、
ACP（人生会議）につなげる取り組みが詰まっています。

Closing Message

クロージング

“ 私たちは、完璧な看取りをしているわけではありません。
迷いながら、悩みながら、それでも向き合っています。

「反省が残るのは、本気で関わった証です」

だから、今日のような時間が大切なのです。
これからも、一緒に考え続けましょう。

”

END OF LIFE CARE TRAINING